

令和5年度

八万南学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

思考力・判断力・表現力の育成を目指した指導方法の工夫
～効果的なICT機器の活用を目指して～

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 須川 麻衣
委員 【校長】①大知大【教頭】②元木誠子 ③東出稔 【教務】④佐々木望 【研修】⑤池田佳世
【各学年等】⑥村田莉子⑦吉成有紗⑧東條輝江⑨安藤仁美⑩松本拓也⑪土橋美智代

校長

大知 大

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識を問う問いかけには、答えることができる児童が多い。 ●習得した知識・技能を活用することには課題がある。	①当該学年の、基礎的・基本的な知識・技能を概ね習得し、ミニテスト等で80点以上の児童の割合が8割以上。 ②身につけた知識・技能を、他の学習や生活の場面で活用することができる。	・発達段階を考慮した反復練習やミニテストを継続的に実施し、基礎的基本的な知識・技能の習得を図る。 ・学習の系統性を意識し、問題解決に向けて知識・技能を活用して考える時間を設定する。 ・意識的に読書の時間を確保する。	・さまざまな種類の本を読めるように各学級の学級文庫の本の交換を行う。	・8割以上を達成している学年もあるが、学年によっては児童の学力差が見られた。 ・基礎的基本的な知識技能をおおむね習得しているが、活用には個人差がある。	・個々の特性やつまづきを把握し、個に応じた目標の設定や指導方法の工夫を行う。 ・週1回はモジュール学習の時間にドリルや練習問題に取り組む時間を確保する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○モデルを示すことで、自分の思いや考えを表現できるようになってきている。 ●根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを表現し、深め合うことに課題がある。	①目的や課題に応じて、根拠や理由を明らかにしながら自分の意見を出し合い、深め合うことができる。 ②タブレットや図書、新聞等を活用して情報を収集し、集めた情報を整理することで、自分の考えを明確にすることができる。	・学習内容や目的に応じたタブレットの使い方を提示したり、関連図書を教室に配置するなどして、児童が取捨選択して活用できるようにする。 ・タブレットの活用について共通理解を図り、効果的にタブレットを活用し、自らの考えを深めたり、自分の考えを伝え合う場面を設定したりする。		・情報を収集する場面では、児童が学習内容や目的に応じてタブレットを十分に活用できていた。 ・タブレットを効果的に活用した実践を行ったが、まだ十分ではない。	・表現の仕方のモデルを示し、繰り返し自分の考えを伝え合う場面を設定していく必要がある。 ・効果的な活用方法について共通理解を図り、効果的な場面でタブレットを使用できるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に真面目に取り組むことができる。 ●自らの学習課題を把握し、解決できるように取り組むことは十分ではない。	①学習規律を守り、学習に対する意欲的な姿勢を身につける。 ②自らの学習課題を把握し、解決に向けて取り組むことができる。	・学習規律(「チャイム着席」「学習の準備」「聞く態度」)の指導を徹底する。 ・効果的な資料の共有や学習活動の工夫を行い、より深い学びの実現に向けて、授業改善を行う。 ・自らの学習課題を解決できるような学習方法を提示する。		・学習規律の指導を徹底し、ほぼ定着させることができた。 ・児童が主体的に学習に取り組めるような課題の設定や資料の提示の工夫を行うことができた。	・引き続き学習規律の徹底を図り、学習意欲を高める。 ・自ら学習課題を把握できるような教師の働きかけの工夫と、資料や学習活動の工夫を行う必要がある。

令和5年度 学力向上ロードマップ

